

# たくみ

T A K U M I

No.050

令和6年6月●夏号  
信州名匠会

(題字:故 池田三四郎 前名誉会長)

## 令和5年度研修旅行 富山・飛騨高山 新旧建築を体感 名建築「玉翠園 谷村美術館」、斬新な工法が光る 「ヘルジアン・ウッド」「(株)ストローグ本社社屋」



(株)ストローグ本社社屋

令和5年度は、コロナが第5類に移行され、コロナ前のように気兼ねなく研修旅行ができるようになり、11月18日(土)～19日(日)の2日間、富山・飛騨高山方面への研修旅行を行った。

1日目、午前中に糸魚川の「玉翠園 谷村美術館」(設計:村野藤吾)を見学し、富山に入って、「ヘルジアン・ウッド(Healthian-wood)」(設計:隈研吾)、「(株)ストローグ本社社屋」(設計:MOUNT FUJI ARCHITEKTS STUDIO)、「ミュゼふくおかカメラ館」(設計:安藤忠雄)、「能作」(設計:アーキヴィジョン広谷スタジオ)を見学。2日目は午前中に新湊きっときと市場で港の新鮮なお土産を買い求め、その後、飛騨高山の歴史的な街並みを巡り飛騨牛を堪能。充実した研修旅行となつた。

### 建築家 村野藤吾、木彫芸術家 澤田正廣、造園家 中根金作 巨匠3人の魂が宿る「玉翠園 谷村美術館」

谷村美術館は建築家村野藤吾による晩年の作品であり、澤田正廣氏の仏像彫刻を展示した美術館である。

入口を抜けると古代遺跡が屹立しているような建物が出現し、そこへ一直線に延びる日本風回廊を進み、美術館へアプローチする。館内は、外観とうって変わり、白い内装で統一され、湾曲した半円形の壁や、洞くつのような空間が静かでやさしい印象を与える。作品を引き立たせるための自然の光と人工照明が織りなす光と影は、静寂の中に落ち着きを感じさせ、仏像作品の神秘さをより引き立せているようであった。

美術館の見学後は、玉水園を見学した。玉水園は山間から流れる二本の川、遠くの山並みを借景し、庭園の築山と結びつけ、広大で閑静な趣ある庭園だ。美術館見学後、短時間ではあるが、会員一同、庭を眺めしばしの休息をとった。



谷村美術館前景

## 立山の豊かな原風景に佇む「隈研吾」設計 作品「ヘルジアンウッド」

「ヘルジアン・ウッド(Healthian-wood)」は立山連峰の麓の水田の中に、自然の恵みと人間とをつなぐアロマ工房やレストランなどの「小さな小屋」を散りばめた建築群である。

レストラン、ハーブ畑、ハーブオイル抽出の工房、イベント用の大屋根が離散的に配置され、水田の上を浮遊するウッドデッキによってつなぐことで、この地域の伝統的な散居村が表現されている。

レストランは内外の壁がポリカーボネートとなっていて、藁の断熱材が透けて見えた。内部も照明デザインや、ハーブをすき込んだ和紙を用いた間仕切り壁など、徹底した自然素材の利用を試み、それらが手に触れ、目で見える部分にふんだんに利用されていた。オイルの抽出工房では、会員は思い思いにハーブオイルを手に取っていた。風雨の中の見学ではあったが、地域に溶け込む建築や地産地消のサイクルを、身をもって感じることができたと思う。

## 新しい木材の使用方法(CLT)が生み出した新しい空間性を体感「(株)ストローグ本社社屋」

(株)ストローグは木構造エンジニアリングを提供する会社であり、その社屋を自社製品を用いてくみ上げた「原田真宏+原田麻魚」設計のCLT建築である。長さがまちまちの幅3,000mmのCLT原版に、切り込みを入れ、井桁状にノックダウンするように組み上げた構造システムを用いている。

CLT壁が積層する空間は上下左右に抜け、空間を斜めに縫い合わせていく。圧倒的に線の少ない構造システムは細部まで共通していた。設備の吹出し口は、天井のライティングレールに沿わせてスリットを切っており、その姿はもはや見えない。また、CLTの接合金物も、表には一切見えない。天井は高圧木毛セメント板を仕上げとしているが、高い精度で垂直にカットしているため、ゆがみや隙間がない。

このように徹底した空間構成意識のもと、細部へのこだわりで構成された空間は洗練された印象を与え、未来的建築を感じる大変興味深い建築であった。(株)ストローグの大倉社長・専務、施工を担当した辻建設のみなさんの説明、会員からの質問を通して、新しい工法、逃げの無い難易度の高い建築の完成度の高さに会員一同感銘を受けていた。

## 研修旅行スナップ



玉翠園・谷村美術館



ヘルジアン・ウッド アロマ工房



ヘルジアン・ウッド イベント広場



(株)ストローグ本社社屋



ミュゼふくおかカメラ館



能作



飛騨高山

**令和5年度研修旅行【富山・飛騨高山 新旧建築を体感】参加者名簿** (23名。使命・所属。順不同、敬称略)  
 内山保・(有)朝陽工芸、落合一視・夫人・落合コンサルタント、北澤徹・(有)北澤ステンレス工業、高橋志行・(株)むね工房、中沢清光・(有)エヌ・テック、堀誠・建築工房アカシヤ、堀内太一・(有)泉秀園、増田幸雄・匠建設(株)、竹口鴨彦・(株)本久、犬飼栄治・(株)シナノ大理石、五明良平・(株)五明、坂田守夫・坂田工業(株)、大内健太郎・サンコー特機(株)、五味沢拓朗・(株)角藤、祢津吉通・(株)ミツルヤ製作所、福島一明・(株)北信帆布、宮本夏樹・(株)宮本忠長建築設計事務所、米田満・(株)山二、黄圣男・(株)カネト、西澤廣智・丸山友基・小口ゆずき・(株)宮本忠長建築設計事務所

会員に聞く  
「たくみの仕事」  
Vol.31

# 伝統構法、自ら構造計算し、形に 独学で、日本の建築文化を支える

小坂建設株式会社 代表取締役 小坂浩一氏(長野市松代町)

profile ●昭和42(1967)年10月9日、長野市生まれ、56歳



伝統工法の家づくりを熱く語る小坂氏

その伝統構法について「あらゆるところに気を配らないと成立しない」と説明する。「渡りあご（仕口の一つ）で、力を上手く下へ渡していくことも考えないといけない。重なったときに、下の木が上の木よりも梁背が小さいとこぼれてしまうし、下の木を大きくすると、逆に無駄が出てしまう。当時、伏せ図を描くだけで2カ月くらいかかっていました」とい、「木一つ一つの仕口や継ぎ手が2次元ではなく、すべて3次元なんです」と、形にしていく過程の難しさを、そう表現する。また、「土壁でつくりたいとなっても、国の基準法上の耐力壁扱いにするには、竹小舞で編んだものしか使えない。それが、北信では葦でやっていて、つまり、通らない」。伝統と法律の間のギャップからクリアすべき課題は多く、「苦労が多い」という。

「普通の家なのに、ここまでやる必要があるのか、といつも思っています」と自嘲気味に話すも、伝統構法に対する信念は揺らがない。描いた図面を形にするベテランと若手の3人の大工とともに、「長野県下の伝統構法に携わる若手大工の皆さんも仲間として一緒にやってくれる」と嬉しそうに語る。こうした努力の積み重ねが結実し、長野県の令和3年度“信州の木”建築賞で、手掛けた「力石の家」(坂城町)が優秀賞を受賞している。(栗原直良)

伝統構法に真正面から向き合い、設計から施工まで一貫して手掛ける。構造計算も自ら行い、市販のソフトは使わない。エクセルに数値を入力して行っているという。「ただ、伝統だから良い、というのは行政には通用しません。そこはやはり、力学的な根拠をもとに説明できない」と真剣な面持ちで話す。

小坂建設は、建設会社に務めていた父の正隆さんが独立して創業。浩一さんは、将来、会社を継ぐため、大学を卒業後、大手ゼネコン・前田建設工業に入社。「木造ではなく、SRCでした」が、やがて家業を継ぎ、住宅建築に携わる。当時は「プレカットで家を建てていて。なんとなく違うんじゃないかなと思いました」。

伝統構法に本格的に取り組むようになったのは、ある設計士の一言だったという。「手書きであれば伝統構法って言うけれど、『それは本当の伝統構法じゃない』と言われ、えっ、となって、調べてみると、貫構法で、本来、通し貫でやることを知って。それがきっかけで、どんどんのめり込んでいきました」と話す。

「独学で、習得するのに4年くらいかかりました。」と振り返る。「その4年間は本当に大変でしたね」。当時、すでに1級建築士の資格は取得していたが、伝統構法はまったく勝手が違う。「猛勉強の日々でした」。



作業場で若手職人の柳澤氏（左）を見守る小坂氏

会員に聞く  
「たくみの仕事」  
Vol.32

# デジタル技術で基礎づくりのため 「測る」山の中から街場まで、手間を惜しまず支える

有限会社エヌ・テック 代表取締役 中沢清光氏(長野市富竹)

profile ●昭和35(1960)年5月24日、飯山市生まれ、64歳



多様な現場での体験を語る中沢氏

建築、土木工事の基礎となる測量業務を専門に行う。技術進歩の目覚ましいデジタル技術を活用し、公共の大規模事業から、民間の住宅関係の測量など、手掛ける分野は広範囲に及ぶ。長野市三才の北部スポーツ・レクリエーションパークの測量や、警察学校、また、東京工業大学の研究室の電波状況を確認するために室内の形を測るといった仕事も手掛ける。

「ただ、現場は前人未到のところが多く。今、調査している場所もほとんどが山の中。街場の仕事もありますが、ハチに刺されたり、クマがさっきまでいたのが分かって命の危険を感じるような現場もありましたね」と語る。トータルステーションによる3次元レーザー測量や、5年ほど前に導入し、現在7基あるというドローンを使った空中からの測量など、様々な機器を使い対象物を測る。「北は秋田から、南は愛媛かな。連絡をいただければ日本中対応します。地震や洪水など自然災害の後の依頼が多いですね」。

2024年の元日に発生した能登半島地震で、斜面の発災直後と、時間を置いた状況とを測り、変動状況を把握する調査を実施。「人が入れないような場所ではドローンを飛ばしてやっています」。19年の令和元年東日本台風では千曲川が決壊し、浸水被害に見舞われた長野市赤沼や、インフラ被害の多かった上田や佐久などでも初動調査などに従事。21年の国道19号沿い、長野市篠ノ井小松原で発生した大規模地すべりでも、現在調査にあたっている。また、16年の熊本地震では、崩落した石垣の石積みを解析するために3次元レーザーで取得した点群データの解析も行った。「同じものを同じ位置に配置するために3次元の図面を作成するというもので、点群の点の数は5億点になりましたね」。

民間の仕事では、別荘地で景観を気にする顧客の求めに応じてレーザーで木一本一本の形を取り込み、隣の家からの離隔や窓の位置、高さなどを合わせて図面に落とし込む仕事も。「建築する際に、隣の家との関係から玄関や窓の位置、高さなどを気にされるお客様が多く、シミュレーションするために3次元のデータにしてお渡ししています」と説明する。

「私たちの仕事は黒子の仕事で、形にする前の段階。基礎になる部分なので、この仕事を手掛けた、ということよりも、良い仕事を続けていくことで、次のお客さまからもまた声がかかると思って、手間を惜しまないようにしています」

下高井農林高校の林業科を卒業後、東京測量専門学校で測量を学び、帰郷して第一測量設計コンサルタント（現AB. do）に入社。独立して96年にエヌ・テックを設立し、現在に至る。技術者としての立場から、経営者の立場となり、ドローン技術を農業分野にも役立てようと農薬散布への活用にも積極的に取り組むなど、新分野への取り組みにも挑戦している。

(栗原直良)



多彩な機能の大小のドローンに囲まれて

# 定例研修会●Report

(令和5年7月～令和6年11月)

## 令和5年度第1回研修会

### 【びんぐし湯さん館で温泉につかり親睦深める ～世俗の垢を落として語り合いましょう】

令和5年7月22日(土)

講 師：(株)N建築設計事務所 所長 西澤嘉雄氏

参加者：18名

令和5年度第1回研修会は7月22日、リニューアル工事が2022年11月に完了した「びんぐし湯さん館」(坂城町)で行った。設計を担当した西澤嘉雄氏がリニューアルの概要などを説明。その後、新しくなったレストランで食事をしながら、会の今後について話し合い、温泉につかり親睦を深めた。

リニューアル工事では、大広間東側屋外の展望デッキの新設、湯上がりコーナーの拡大、レストランの増築と床暖房の整備、老朽化した設備関係の改修などを



西澤嘉雄氏の話に耳を傾ける会員

実施。コロナ禍の中、密を避けながら多目的に使えるスペースの確保や動線の見直しを図った。

西澤氏は、びんぐし湯さん館の建設計画から振り返り「この建物を設計するにあたっては、現地を訪れたが、地形条件が厳しく、造成費用を抑えるのに苦労した」「12年のリニューアルでは、メインの入浴施設で石風呂をつくるため中国まで行って検品してきた」と述べた。22年の改修工事については「森林浴ができるよう屋根付きの展望デッキをつくったり、床暖房を導入したり、利用者が安心してくつろげるような改修を行った」と説明した。

## 令和5年度親睦ゴルフコンペ 荒井氏が優勝

令和5年8月2日

場所：長野カントリークラブ

参加者：12名

スポーツを通じ会員同士の親睦はかかる恒例の懇親ゴルフコンペが、長野カントリークラブで行われました。

当初17名参加申し込みをいただきましたが、コロナの流行等で、1組3名で、4組、計12名によって行われ、連日の暑さが続く中、高原の心地よい空気を感じながら、仕事を忘れ和気あいあいゴルフを楽しみました。

今回は、ベテラン・若手の飛ばしや、ゴルフが久しぶりの

方等、大勢の中、本久の荒井さんが、高妻コース44、飯綱コース48で、実力通りのスコアで優勝されました。ベスグロは斎藤さんでした。

プレー後のパーティーでは、各賞が渡され、ベテラン・若手、プレーを振り返りながら親睦を深めるひとときとなりました。

参加者は次の通り(順不同、敬称略)

坂田守夫／坂田工業(株)、宮本夏樹／(株)宮本忠長建築設計事務所、北澤徹／(有)北澤ステンレス工業、五明良平／(株)五明、小坂浩一／小坂建設(株)、荒井孝明／(株)本久、水沢仁亮／(株)二見屋、左右田光／(株)インテック左右田、黄 茜男／(株)カネト、増田幸雄／匠建設(株)、斎藤昌彦／(株)角藤、本澤篤／(株)マナテック



長野カントリークラブにて

## 令和5年度 第2回研修会

### 【旧小諸本陣(問屋場)、脇本陣宿 杓屋見学会】

令和5年9月23日(土)

講師：北野建設株式会社工事主任 岡田利活氏

甘利亨一建築設計舎 代表取締役 甘利亨一氏

参加者：21人

令和5年度第2回研修会は小諸市で開催。初めに、旧北国街道小諸宿の本陣兼問屋場として使用されていた「旧小諸本陣」を見学した。現存する最も大きな問屋場で、1973(昭和48)年に国の重要文化財に指定された。2027年の修理・復元を目指し保存修理工事が進められている。工事を担当する北野建設の岡田利活氏にご案内いただいた。21年より工事が進められ、近現代の改築部分や下屋が解体され、骨組みだけとなった建物の骨格を見学。さらに解体の過程で発見された閑札や宿札など貴重な部材を観ることができた。



徳善院にて塚原氏より説明を聞く参加者



茅葺屋根が残る徳善院にて

次に訪れたのは、旧脇本陣の建物をリノベーションし、カフェを備えた旅館として生まれ変わった「朧月」。脇本陣は参勤交代の際、大名や家臣が宿泊した施設で、朧月は江戸時代の雰囲気を継承しながら2019年にオープンした。江戸後期の建築とされ、大きな屋根が印象的。切妻破風のひさしと式台のついた格式高い玄関を通り抜け、室内を見学した。梁や欄間、既存の木組や意匠を生かした客室で、甘利氏は「脇本陣としての機能の面影を残しながら、時代の変遷の中で流れてきた形を再構築した」と振り返った。

## 令和5年度 第3回研修会 【コードマーク御代田 見学会】

令和5年10月21日（土）

講師：アイダアトリエ代表・建築家 会田友郎氏  
コードマーク御代田代表取締役 森田秀之氏

参加者：24名

第3回研修会は御代田町面替に新たに完成した里山の維持・保全活動の拠点施設となる「コードマーク御代田」を見学した。名前の「コードマーク」は、面替地区を含む平尾山麓の北側で多く出土した縄文土器からきており、縄文文化の特徴の一つである、人と自然との「共有の精神」に由来する。コードマーク御代田は2020年に株式会社として設立され、活動に共感する人は「株主」として施設や活動を文字通り「共有する」形で携わる。1年を通じて炭づくりをはじめ耕作、水稻、竹細工作り、鹿肉の解体、餅つきなど多岐にわたり、これらが共有の精神に基づいた「里山」の環境を維持・保全する活動となっている。

コードマーク御代田の外観は、螺旋状に上昇する力強い屋根がひと際目を引く。内部は事務所、厨房、作業場、拠点施設を内包する。8つのレベル差を設けた床がクリ丸太の心柱とペチ



螺旋状に上昇する屋根の形状

力を中心に渦を巻くように上を目指す構成となっている。大窓からは北側に浅間山や北アルプス、南側に平尾山の雄大な景色を臨むことができる。

活動を主宰する森田秀之氏は、16年前に御代田町へ移住。コードマークの前身である薪を作りながら山里を整備する「薪びとクラブ」を立ち上げた。森田さんは「知識だけではない『実践』を通じて山と接する形がほしかった」と話した。

設計・監理に携わった会田友郎氏（アイダアトリエ代表）は、季節ごとに御代田町に足を運び、時には江戸時代から面替地区にある大星神社の歴史や地域の関係性に触れ、「地域との結びつきを掘り下げながら、人が集える場所を形にした」と話した。



レクチャーする会田氏

## 令和5年度 第4回研修会 【中野市民会館リノベーション工事見学会】

令和6年2月17日（土）

講師：（株）宮本忠長建築設計事務所  
　　山田専務、出澤設計監理主管、本荘設計監理主管  
参加者：19名

令和5年度第4回研修会は、完成したばかりの中野市民会館リノベーション工事を見学した。前年の5月に工事中の様子を

見学しており、今回も設計監理を担当した宮本忠長建築設計事務所、環境デザイン研究所JVから山田将光専務（宮本建築設計事務所）らが講師を務め、新会館の特徴や改修工事でのポイントなどを聞いた。

同会館のリノベーション工事は、老朽化した旧施設を、現在の要求水準を満たすように改修するプロジェクトで、担当者からは、設計にあたって市民の意欲を喚起し、楽しい雰囲気にあふれた、回廊でき、変化に富んだ体験のできる「遊環構造」理論を取り入れたことが説明された。

ファサード部分は、新たにエントランスを設け、新市民会館の顔として印象づけ、西側の大ホールと東側の多目的ホールの間に、南北を貫く「市民想像回廊」を設け、市庁舎のエントランスと重なる「文化軸」としての機能を持たせたことも説明された。

施設の中心となる大ホールは、舞台が見やすい囲み型の客席配置として演者と観客の一体感を創出した。多目的ホールは、市民想像回廊と一体化的に使用できる空間として幅広い使い方ができるよう可動いす収納にしたという。



ホール内を見学

## 令和5年度 第5回研修会 第27回リレートーク「ストーブ・サウナ」

令和5年3月21日（木）

講師：長野サウナ販売（株）代表 鳥羽英夫氏ほか  
参加者：25名

長野サウナ販売さんのショールームをお借りし、同社代表の鳥羽氏、山本氏、株式会社メトスさんから、近年需要の高まる薪ストーブやサウナについて、紹介・講義をいただいた。

はじめにストーブについて講義をしていただいた。薪ストーブは鉄物製と鋼板製があり、それぞれの特徴や種類や、実際に導入する際の煙突の構造、不燃仕上げの範囲、吸排気の取り方や必要な離隔等、施工例を用いて分かりやすく紹介があった。また、メンテナンスについても説明があり、導入時のイメージをより具体的に持つことができた。

次にサウナについて講義をいただいた。現在は第3次サウナブームで、東京をはじめ地方にもアウトドアサウナ、プライベートサウナなど、新しいサウナの形式で店舗が展開している。講義では歴史の中のサウナ変遷から、現在の様々な独自スタイルで広がりをみせるサウナのあり方にについて、説明があった。講演後は実際に薪ストーブを利用して焼いたピザをふるまつていただき、一同団欒のひと時を過ごした。



会員から換気システムや内装の留意点などの質問が寄せられた